

学 部	看護リハビリテーション学部
学 科	
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<p>学生の専門的知識への興味や将来の進路への期待に応え、目的意識を明確にし、学習意欲を高めるため、1年次から専門基礎科目や専門科目の講義、演習、実習を開講する。</p> <p>看護学科、理学療法学科共通の講義を開講し、幅広い知識技術を養うとともに、チーム医療の必要性を理解し、健康の維持増進・予防・治療・回復・社会復帰までを担える保健医療職者としての共通認識を育む。</p> <p>また、臨地・臨床実習においては、本学が提携する病院施設、老人保健施設、訪問看護ステーションをはじめ、主として兵庫県内の多様な実習施設で少人数制によるきめ細やかで実践的な実習を行う。</p> <p><b>【看護リハビリテーション学部におけるカリキュラムの特徴】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入学年次から臨地的な体験を含む演習・実習科目の実施</li> <li>2. 両学科の授業を相互に受講できる学際的なカリキュラム</li> <li>3. 実践的なチーム医療の基礎となる教育の実施</li> <li>4. 看護およびリハビリテーションの理念を基礎に、保健医療専門職者に必要な幅広い共通科目、専門基礎科目、専門科目の開講</li> <li>5. 臨地・臨床実習施設との連携による、教育と実践の効果的な学習体制の充実</li> </ol>	

学 部	看護リハビリテーション学部
学 科	看護学科
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<p>「豊かな人間性を培い、高い倫理観のもと生命への尊厳を基盤に対象者とその家族を中心にした看護を実践するための基礎的能力を修得する」という看護学科の教育目標を達成するために、次の7つの教育の柱をおく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間を尊重する態度と創造的ケアの実現</li> <li>2) ライフサイクルを踏まえた人間理解</li> <li>3) 科学的根拠に基づいた看護実践</li> <li>4) 人間関係を培うコミュニケーション</li> <li>5) 国際・情報化社会に対応できるグローバルな観点</li> <li>6) 多職種連携における専門職の理解</li> <li>7) 倫理的態度を基にした自律的学習</li> </ol> <p>カリキュラムは、幅広い教養と豊かな人間性、および看護学の専門的知識・技術を身につけるため、共通科目、専門基礎科目、専門科目で構成される。</p> <p>看護への目的意識を明確にし、学習意欲を高めるため、1年次から4年次まで専門基礎科目および専門科目の講義、演習、実習を交互に系統的に配置して開講する。</p>	

学 部	看護リハビリテーション学部
学 科	理学療法学科
ディプロマポリシー（学位授与の方針）	
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<p>社会人、医療人として必要とされる広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する全学共通科目として基礎科目、教養科目、総合科目、言語情報科目を配置する。特に、理学療法士になることへの強い意志と自覚を持たせ、学習意欲を高め、理解力と行動力を身につけるために、1年次・2年次では「基礎ゼミ」、4年次では「卒業研究」と「理学療法総合演習」といった少人数制によるきめ細やかな教育体制を整備した。</p> <p>専門基礎科目と専門科目では系統的な積み重ね学習を行えるように講義と実技実習を交互に配置・開講し、幅広い視点を身につけると共にチーム医療の中で働く専門職としての共通認識を育むために看護学科との共通の講義も開講する。</p> <p>このような教育成果として学生の知識・技能・態度を評価するために臨床実習前では客観的臨床能力試験(OSCE：Objective Structured Clinical Examination)を実施し、臨床実習後では卒業試験を課して、女性理学療法士としての清潔さ、誠実さ、忍耐力をも確認する体制を整備した。</p> <p>以上をふまえて、医療・医学分野における科学的根拠に基づいた専門知識と臨床能力を段階的に学び、幅広い教養を修得し、心理面を含めて人を総合的に把握できる理学療法士を養成する。</p>	